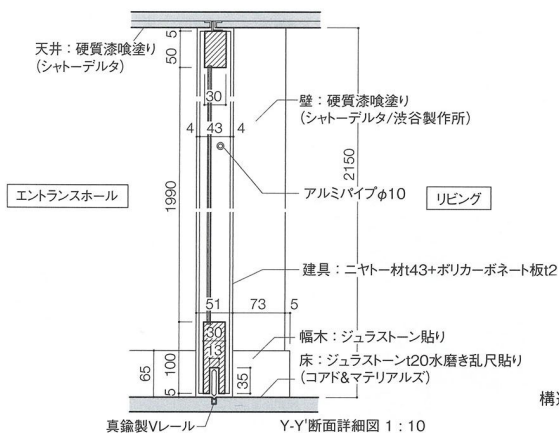


CASE 4

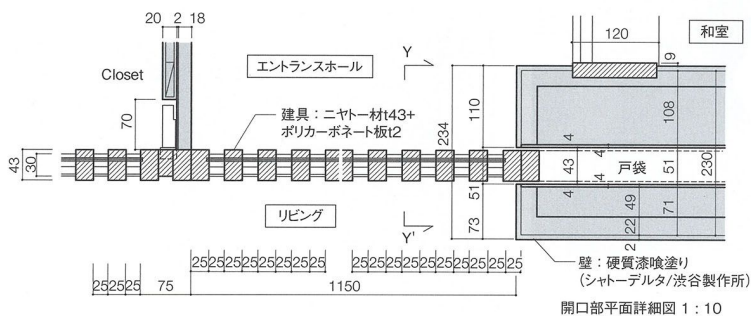
使い勝手と美しさを両立させた
 千本格子の引き込み戸

東京・品川に立つマンションの一室を、ゲストを招くセカンドハウスにリノベーションしたK邸。エントランスホールからリビング、その先の寝室までジュラストーン
 の床材で統一し、ひとつながりの空間として設計した。このエントランスホールとリビングを緩やかに仕切るのが、ニヤトー材で特注した千本格子の引き込み戸だ。空間の一体感を高めるため、エントランスホールの天井高をリビングの折り上げ天井下端とそろえると共に、引き込み戸は建具枠を設けず、天井高いっぱいの高さ2150mmに設定。床に真鍮製のVレールを埋め込み、歩行時の妨げにならないフラットな床をかなえた。

引き込み戸には乳白色のポリカーボネート板を挟んでいるため、戸を閉じた際もエントランスホールに柔らかな光が導かれ、隣接する和室の建具を開け放せば和室にも光が回り込む。また、格子の幅と間隔が等しい小間返しになるよう、25mmに統一することで洗練された和のデザインに。さらに、引き込み戸の脇にあるリビング側の収納扉も同じデザインとし、収納扉の戸尻が引き込み戸の戸当たりを兼ねることで閉じた際に格子が一体化。リビング側からは連続した壁面のように見せている。



Data
 構造と規模 / RC造 マンションの一室
 床面積 / 80.78㎡
 家族構成 / オーナー
 ※仕上げ材料、家具の仕様リストは220頁に掲載



1. エントランスホール(CH2150mm)と奥のリビングとの間に千本格子の引き込み戸(W1150mm×H2150mm)を設置。建具枠を設けていないためすっきりとした印象をもたらし、格子の間に乳白色のポリカーボネート板を挟んでエントランスホールまで光が回り込むようにした。格子の幅と間隔を25mmにそろえて小間返しに。左側がゲストルームを兼ねた和室 2. 空間の一体感を損なわないよう、ジュラストーン貼りの床に真鍮製のVレールを埋め込んでフラットな床を実現。右手には千本格子の収納扉があり、その戸尻が引き込み戸の戸当たりを兼ねている

I'm home.

HOME LOVES CATS & DOGS

猫と犬と、住まいと

猫と犬と行く
カフェ&ホテル
29軒



映画のようなバスルーム
手嶋 保と新関謙一郎の設計ディテール
ドライフラワーをアートに